

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 10 日現在

機関番号：23103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00233

研究課題名(和文) 美術教育と市民性教育 Arts-Based Researchの社会的可能性

研究課題名(英文) Art Education and Citizenship Education: Social Possibilities of Arts-Based Research

研究代表者

児美川 佳代子(小松佳代子)(KOMIKAWA (KOMATSU), KAYOKO)

長岡造形大学・造形研究科・教授

研究者番号：50292800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アートとシチズンシップの関係を理論的・実践的に探究してきた。理論的研究の成果は、国内外の美術教育学会のみならず、日本教育哲学会や日本ホリスティック教育/ケア学会など、他分野の学会でも発表した。また、研究成果は書籍として出版した。実践的研究としては、展覧会を開催し、それに関連するワークショップやシンポジウムを実施した。展覧会のカタログ、シンポジウムの記録冊子を作成し、社会に広く発信した。さらに、哲学対話も複数回開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、美術教育が単に美しい色や形を制作/鑑賞するものではなく、また単なる自己表現でもなく、自己を取り巻く環境に情動や身体を伴ってどう対峙するかという問題であることを示したという点で社会的意義がある。また、これまで蓄積のある市民性教育に対して、政治的行動や公共性を担う自律した強い市民性ではなく、アートを介在させることで、もっと軽やかでその時々立ち上がる弱い市民性があるのではないかと問題提起する点で学術的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：This project has inquired the relationship between art and citizenship both theoretically and practically. The outcomes of the theoretical research were presented at not only the conference on art education home and abroad, but also at conferences in other fields, such as Philosophy of Education Society of Japan and Japanese Society for Holistic Education/Care. The results of the research were published as books. As practical research, we held the exhibition and related workshop and symposia. The results were widely disseminated through the exhibition catalogue and a booklet recording the symposium. In addition, Philosophical dialogues were also held several times.

研究分野：教育学、美術教育学

キーワード：アートベース・リサーチ シチズンシップ アートグラフィー 哲学対話 美術教育 芸術的知性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

美術教育研究の領域では、従来の量的研究・質的研究に加えて、2010年代前後から芸術に基づく研究 (Arts-Based Research: ABR) という考え方が注目されるようになってきた。これは教師と生徒との関係行為とそれぞれの生成変容によって日々変化する教育という事象に浸透している質を捉えるのに、研究者にも単にエビデンスに基づくだけでなく、芸術を理解する際に働く鑑識眼やそれを的確に分節化する批評の力が求められたことに由来している (Eisner, E.W. *Educational Connoisseurship and Criticism*, 1976, Barone, T. & Eisner, E.W. *Arts Based Research*, 2012)。従来美術教育は感性や情操を涵養するものと捉えられ、その学習内容も色や形といった視覚的要素に重点が置かれてきた。ABRは、芸術的な手法を学習や教育実践、さらには研究の中に取り入れることによって、一義的に答えを導くのが難しい複雑な社会問題にアプローチすることを可能にし、また芸術的な実践を通じてコミュニティ形成やアイデンティティの獲得などといった新たな活動へと展開する可能性をもっている。芸術に基づくこと、教科や学問を横断する総合的な知の形成が図られること、また教育や研究に芸術的な実践を組み込むことで教師や研究者自身の生成変容が図られることなどへの着目から、国際美術教育学会 (International Society for Education through Arts) では、ABRは一つの大きな研究潮流となっている。

教育学の分野では2000年頃から、教育学のポストモダニズムにおいて、近代の行き詰まりを克服する契機として「美的なもの」が浮上し、「美と教育」「アート教育」などを主題としたシンポジウムや著作出版が相次いでなされている (佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育てる アート教育の思想と実践』2003, Imai, Y. & Wulf, Ch. eds., *Concepts of Aesthetic Education. Japanese and European Perspective*, 2007など)。このように教育学から美術教育への期待が寄せられているが、美術教育研究の側からそれに応答するような研究が十分になされているとは言えない。申請者は美術教育の側から教育学への応答をなすべく研究を続けてきた (東京藝術大学美術教育研究室編『美術と教育のあいだ』2011、小松佳代子編著『美術教育の可能性 作品制作と芸術的省察』2018)。また教育哲学研究としてシティズンシップ教育について論じている G. ビースタ (『民主主義を学習する 教育・生涯学習・シティズンシップ』2014、『よい教育とはなにか 倫理・政治・民主主義』2016) が、近年美術教育について論じるなど (Biesta G. *Letting Art Teach: Art education 'after' Joseph Beuys* 2017, Naughton, Ch. Biesta, G. & Cole, D.R eds., *Art, Artists and Pedagogy: Philosophy and the arts in education*, 2018) 教育と美術と市民性教育を接続する議論の土俵ができてきた。

政治哲学の分野では、例えば2002年のアメリカの政治・法哲学会の年次報告書が教育を取り上げている。その背景には、シティズンシップの質に対する関心、多文化主義からの問題提起、親の教育選択を強調する教育改革への関心がある (Macedo, S. & Tamir, Y. eds., *Moral and Political Education, NOMOS XLIII, Yearbook of the American Society for Political and Legal Philosophy*, 2002)。また近年、J. ランシエールや A. バディウなど、政治的な議論をしつつ芸術について論じる哲学者が芸術の研究と実践において注目されている。このように政治哲学において教育と美術それぞれに接続する議論はあるが、政治と教育と美術との三者をつなげる研究はなされていない。

2. 研究の目的

本研究は、以上のような学術的背景をもとに、政治と教育と美術の三者の関連づけることで美術教育と市民性教育をともに再考することを目指すものである。本研究課題の革新をなす学術的「問い」は、美術教育は市民性教育とどう関わるのか？市民性教育は美的なものをどう組み込み得るのか？というところにある。また美術をベースにした研究が社会課題にどう接続し、未来社会の形成にどう資することができるのかも問う。

感性や情操の教育とは別の美術教育の意義を浮かび上がらせると同時に、市民性教育についても美術教育と接続することで、共同体主義的なものとは異なる、自らの判断力に基づいて社会形成を展望するような、新たな市民性教育の可能性を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は3つの柱を立てて研究を進めていく。

第一に理論的な研究である。市民性教育についてはこれまで多くの研究がなされてきているが、それを美術教育とつなげるためには、美術と社会や政治とを接続している哲学的な議論も含めた理論的な検討が必要である。先に見たビースタやランシエール、バディウなどの他、美術教育の研究として民主主義的な社会構想を論じている D. アトキンソンや D. オドノヒュー、また社会彫刻を提唱し実践した J. ボイスなどの美術家の思想についても検討する必要がある。遡って、政治哲学の視点から美的判断力について論じている H. アーレント、さらに ABR にも影響を与えている J. デューイの『経験としての芸術』の議論が彼の民主主義教育論とどう関係しているのかについても検討しなければならない。こうした理論的研究については主に研究代表者が

担当する。

第二に ABR を軸にした国際的な共同研究である。ABR はアートをベースにした研究であるゆえに、環境問題や移民問題、社会正義やコミュニティ形成など、一義的に答を見いだすのが難しい課題について探究する際に力を発揮する。ABR はこうした社会課題にコミットする美術教育の新たな可能性を模索している。この 10 年ほどの間に美術教育研究において国際的に大きく展開しているこの動向に、研究代表者・研究分担者共に深く関わっている。特に、研究分担者の笠原は、ABR の一環として進められているカナダ・スペイン・中国などの研究者との共同研究である Mapping A/r/tography の日本側の代表者を務めている。この共同研究には、小松・生井も参画し現在その成果をまとめる図書の出版も準備中である。カナダの R.アーウィンと共著でこの研究成果の一部をまとめて出版した(『アートグラフィー 芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法』2019) 笠原がこの研究ではリーダーシップをとる。

第三に、美術教育と市民性教育とをつなぐ実践的な研究である。美術に関するワークショップの多くは、造形活動が中心で、本研究が目指すような市民性教育につながるような試みはあまり例がない。研究分担者の生井は、美術作品の鑑賞を通じた哲学対話の実践を重ねている。本研究では、市民性教育を軸にした美術ワークショップを実践することで、従来の美術教育と市民性教育双方を問い直すことを目指す。この実践的な研究については生井・竹本が中心となって遂行する。こうした三つの側面から研究を行うことで、美術教育が市民性の涵養にとっていかなる働きをなし得るのかを明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、アートとシティズンシップの関係を理論的・実践的に探究してきた。理論的研究の成果は、美術科教育学会、InSEA World Congress など国内外の美術教育学会のみならず、日本教育哲学会や日本ホリスティック教育/ケア学会など、他分野の学会でも講演や口頭発表を行った。また、研究成果は、『アートベース・リサーチの可能性 制作・研究・教育をつなぐ』、『アートベース・リサーチがひらく教育の実践と理論』、『子どもの表現とアートベース・リサーチの出会い』、Arts-Based Methods in Education in Japan, Visual Methods, A/R/Tography & Walking などの書籍として他言語でも出版した。実践的研究としては、2022 年に栃木県小山市で「Articulation 区切りと生成」というテーマの展覧会を開催し、それに関連するワークショップやシンポジウム「アーティストは何を探究しているのか」を実施した。展覧会のカタログ、シンポジウムの記録冊子を作成し、社会に広く発信した。さらに、市民を対象とした哲学対話やアートワークショップも複数回開催した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 小松佳代子・竹本悠太郎・坂井友美	4. 巻 20
2. 論文標題 美術制作者の感覚を伝えるアーティストインレジデンス アートを地域社会に投企する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 長岡造形大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 64 - 71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 笠原広一、竹美咲、和久井智洋、中村翔太郎、加山総子、高田慎之佑、小島菜緒子	4. 巻 74
2. 論文標題 アート・ワークショップにおけるライブ的なものとは何か 実践者の振り返りからの考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 37 - 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小松佳代子	4. 巻 0
2. 論文標題 アーティストによる自己批評を図録に掲載すること Arts-Based Researchの展開可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Articulation 区切りと生成展図録	6. 最初と最後の頁 6 - 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 生井亮司	4. 巻 0
2. 論文標題 美術制作における区切りと生成 - あめつちのあわいを生きること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Articulation 区切りと生成展図録	6. 最初と最後の頁 7 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松佳代子	4. 巻 1
2. 論文標題 美術制作における芸術的知性の涵養	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術-工芸の制作-教育-実践研究	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三好風太・小松佳代子	4. 巻 19
2. 論文標題 図鑑という知: 芸術的知性による世界把握	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長岡造形大学紀要	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松佳代子・坂井友美・岡谷敦魚	4. 巻 19
2. 論文標題 版画工房を中心とした地域文化拠点の構築に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長岡造形大学紀要	6. 最初と最後の頁 72-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 0
2. 論文標題 Arts-Based Research and A/r/tography Practice in Teacher Training Course in Japan: Focusing on the Practices in the Post-Corona Era	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Korea Art Education Association	6. 最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司	4. 巻 11
2. 論文標題 Researchとしてのアート制作（制作ノート）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野大学教育論集	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司	4. 巻 12
2. 論文標題 中間に生成する（制作ノート）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵野大学教育論集	6. 最初と最後の頁 107-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司	4. 巻 0
2. 論文標題 弱くて繊細な感受性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵野大学教育学部幼児教育学科リカレント企画シンポジウム報告書	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司	4. 巻 0
2. 論文標題 表現と存在、あるいは生きること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 令和3年度武蔵野市寄付講座報告書	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司	4. 巻 16
2. 論文標題 制作の、その先(メタ・プシキカ)へ 芸術的な探究と見えないものに触れること	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 武蔵野教育論集	6. 最初と最後の頁 165 - 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kasahara Koichi	4. 巻 Online
2. 論文標題 Bleaching and drifting	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Review of Education, Pedagogy, and Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10714413.2024.2326394	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小島菜緒子、福田真子、嶽里永子、高田慎之佑、笠原広一	4. 巻 57
2. 論文標題 国際バカロレア美術科MYPにおけるIDU実践と教員間の連携 敷き詰め題材を実践した教員達の視点から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本美術教育研究論集	6. 最初と最後の頁 171 - 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加山総子、小島菜緒子、福田真子、笠原広一	4. 巻 44
2. 論文標題 保育者養成における造形表現を通した自己探求の取り組みの考察：自己のタイムラインを探る・語る・創造するアート・ワークショップから	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 山梨学院短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 111 - 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一、小室明久、小島菜緒子	4. 巻 75
2. 論文標題 自己のタイムラインを探る・語る・創造するアート・ワークショップ実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件 (うち招待講演 29件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 イメージと人間形成 美術の制作と鑑賞を念頭に置きつつ
3. 学会等名 教育哲学会第65回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 Arts-Based Methods in Education Research in Japan 背景・内容・可能性
3. 学会等名 日本認知科学会芸術と情動分科会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kayoko Komatsu
2. 発表標題 How can we understand each other through thing?
3. 学会等名 The Interdisciplinary Global Design Project 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 オンラインでのアートベースの探究実践 2021 の報告
3. 学会等名 国際共同研究会議・二国間国際共同研究セミナー「コロナ時代の美術デザイン教育のパラダイム創出と社会文化的エコシステム型遠隔学習」研究チーム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 ABRとA/r/tographyが日本の教員養成と美術教育にもたらすもの
3. 学会等名 日本認知科学会芸術と情動分科会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 My A/R/T Practices and Arts-based Practices with my MA Students
3. 学会等名 Online Seminar on Art Education, hosted by Malmo University(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Walking and Making Art through Sumi-e and Hai-ga with the Concept of the In-between Spaces 'Ma'
3. 学会等名 International Exchange Program with Monash and TGU(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koichi KasaharaKoichi Kasahara
2. 発表標題 Practice of Arts-Based Research and A/r/tography in Teacher Training Program: focused on the practices in post-corona era
3. 学会等名 Overseas Prestigious Scholar Project, A/r/tographic Walking, Guangzhou Academy of Fine Arts, A/r/tography Research Centre at Hangzhou Normal University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Walking through the Times of Transition: Mapping and Re/construction of Identity through A/r/tographya
3. 学会等名 Overseas Prestigious Scholar Project, A/r/tographic Walking, Guangzhou Academy of Fine Arts, A/r/tography Research Centre at Hangzhou Normal University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 探究/探求を生きる美術教育実践
3. 学会等名 東久留米市授業改善研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河合規仁・畠山智宏・矢島毅昌・笠原広一
2. 発表標題 これからの社会と子どもの造形活動・表現活動
3. 学会等名 日本子ども社会学会 第28回大会 シンポジウム-I (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Arts-based Research on/as Methods for Living in the COVID-19 Era / Korea/Japan Joint Research Project
3. 学会等名 The Interdisciplinary Global Design Project 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi KasaharaKoichi Kasahara
2. 発表標題 Walking through the Times of Transition: Mapping and Re/construction of Identity through A/r/tography
3. 学会等名 The InSEA 2022 World Forum Asian Super Webinar, InSEA Asia Regional Council (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 美術教育をベースにした幼稚園や保育園の保育実践支援の取り組み
3. 学会等名 深せん市南華幼稚園工作室講演会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 マッピング・アートグラフィー 東京ウォーキング
3. 学会等名 立命館大学人間科学研究科実践人間科学特論 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi KasaharaKoichi Kasahara
2. 発表標題 International Saloon and Forum on Dilemmas and Problems of Rural Art Education
3. 学会等名 School of Art Education, Guangzhou Academy of Fine Art (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi KasaharaKoichi Kasahara
2. 発表標題 International Saloon and Forum on Dilemmas and Problems of Rural Art Education
3. 学会等名 School of Art Education, Guangzhou Academy of Fine Art (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 子どものワークショップの体験理解 - 関与観察とエピソード記述による質的研究から -
3. 学会等名 造形教育センター2021年6月 月例研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 アートベースの探求 - コロナ禍の中での学部・大学院での実践から -
3. 学会等名 造形教育センター2021年6月 月例研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Arts-Based Research and A/r/tography Practice in Teacher Training Course in Japan: Focusing on the Practices in the Post-Corona Era
3. 学会等名 Korea Art Education Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一、和久井智洋、池田晴介、小島菜緒子、齊藤諒、井上扇里
2. 発表標題 アートと言葉のワークショップ実践 - オンライン・ワークショップを通じた可能性の探求 -
3. 学会等名 アートミーツケア学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 ワークショップの体験理解：アートと関与しつつの観察
3. 学会等名 九州大学人間環境学府多分野連携プログラム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 アートベースの実践と探究がひらくもの
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会 第6回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 美術教育に横槍を入れる
3. 学会等名 第44回美術科教育学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 芸術的知性をめぐって 美術教育の市民性教育への接続へ向けて
3. 学会等名 A/R/T研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kayoko Komatsu, Ryoji Namai, Yutaro Takemoto, Koichi Kasahar
2. 発表標題 Arts-Based Research and Citizenship Education
3. 学会等名 InSEA World Congress（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 アートベース・リサーチの可能性
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 生井亮司
2. 発表標題 美術制作における区切りと生成 平和ということの展開を視座に
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 生井亮司
2. 発表標題 彫刻制作がひらく静かな世界 私という生のライフヒストリーをもとに
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会(語り合う森)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Forest bathing and nature-based art possibilities with children, Aesthetic and cultural encounters: Learning with the land through art
3. 学会等名 Monash University, Melbourne(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Development of Art Education with A/r/tography: Practices in Teacher Training and School Education in Japan
3. 学会等名 th A/r/tography Asian Symposium(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ewa Berg, Koichi Kasahara, Yasuyuki Kiyono, Rieko Take, Shinnosuke Takada, Naoko Kojima
2. 発表標題 Blended Collaboration: Blended/Hybrid Art Classes in Art Education in Sweden and Japan
3. 学会等名 InSEA World Congres (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sunah Kim, Koichi Kasahara
2. 発表標題 Seeing Beyond the Sea: Arts-Based Research on International Relations in the Post-Colonial Era
3. 学会等名 InSEA World Congres (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Current Issues of Art Education and the Status of Arts Based Pedagogy in Teacher Training Curriculum in Japan
3. 学会等名 1st Sustainable Relationality Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 生井亮司・小松佳代子・竹本悠太郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小山市車屋美術館	5. 総ページ数 194
3. 書名 Articulation 区切りと生成展図録	

1. 著者名 直江俊雄責任編集、美術教育学叢書企画編集委員会編、池田史志、笠原広一ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学术研究出版	5. 総ページ数 165
3. 書名 美術教育学 私の研究技法	

1. 著者名 生井亮司・小松佳代子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 なし	5. 総ページ数 30
3. 書名 Articulation 展シンポジウム「アーティストは何を探究しているのか」記録冊子	

1. 著者名 笠原広一・小松佳代子・生井亮司編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学术研究出版	5. 総ページ数 262
3. 書名 アートベース・リサーチがひらく教育の実践と理論（ABRから始まる探究（1） 高等教育編）	

1. 著者名 Kayoko Komatsu, Kikuko Takagi, Hiroaki Ishiguro, Takeshi Okada eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 272
3. 書名 Arts-Based Methods in Education in Japan	

1. 著者名 今井康雄;Nohl, Arnd-Michael;鈴木, 優;真壁, 宏幹;小松佳代子;池田, 全之;Atkinson, Dennis;Wulf, Christoph;Koller, Hans-Christoph;木下, 慎;Wigger, Lothar;山名, 淳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 309
3. 書名 モノの経験の教育学 : アート制作から人間形成論へ	

1. 著者名 樋口聡・釜崎, 太;上泉, 康樹;新保, 淳;松田, 太希;裴, 芝充;小松佳代子・リチャード・シュスターマン・グンター・ゲバウア、新保淳、須谷弥生、山内規嗣、丸山恭司、今井康雄、佐藤臣彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 創文企画	5. 総ページ数 167
3. 書名 身心文化学習論	

1. 著者名 笠原広一・池田史志・手塚千尋・和久井智洋・吉川暢子・森本謙・加山総子・池田晴介・和田賢征・丁佳楠・岩永啓司・小室明久・佐藤真帆・生井亮司・栗山由加・櫻井あずみ・フェルナンド F フェルナンデス	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 299
3. 書名 子どもの表現とアートベース・リサーチの出会い (ABRから始まる探究 (2) 初等教育編)	

1. 著者名 Nicole Y.S. Lee, Rita L. Irwin (Ed.), Koichi Kasahara et.al	4. 発行年 2021年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 140
3. 書名 Mapping A/r/tography: Exhibition Catalogue, InSEA 2019 World Congress	

1. 著者名 Lasczik, A., Irwin R. L., Cutter-Mackenzie-Knowles, A., Rousell, D., & Lee, N. (Eds.) Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Toshio Ishii, Takashi Takao, Kazuji Mogi, Minoru Inoue, & Kaho Kakizaki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cham: Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 294
3. 書名 Walking with A/r/tography.	

1. 著者名 小松 佳代子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 アートベース・リサーチの可能性：制作・研究・教育をつなぐ	

1. 著者名 Joaquin Roldan, Ricardo Marin-Viadel, Marzieh Mosavarzadeh, Ken Morimoto and Rita L. Irwin. (Eds.)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Tirant	5. 総ページ数 408
3. 書名 Visual methods, a/r/tography & walking in educational research	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	生井 亮司 (Namai Ryoji) (20584808)	武蔵野大学・教育学部・教授 (32680)	
研究分担者	笠原 広一 (Kasahara Koichi) (50388188)	東京学芸大学・教育学部・准教授 (12604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	竹本 悠太郎 (Takemoto Yutaro) (60979805)	秋田公立美術大学・美術学部・助手 (21403)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	竹丸 草子 (Takemaru Soko)		
研究 協力者	南雲 まき (Nagumo Maki)		
研究 協力者	長島 聡子 (Nagashima Satoko)		
研究 協力者	飯塚 純 (Iizuka Jun)		
研究 協力者	坂井 友美 (Sakai Tomomi)		
研究 協力者	石黒 芙美代 (Ishiguro Fumiyo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三好 風太 (Miyoshi Futa)		
研究協力者	櫻井 あすみ (Sakurai Asumi)		
研究協力者	菊地 匠 (Kikuchi Takumi)		
研究協力者	橋本 大輔 (Hashimoto Daisuke)		
研究協力者	山本 玲央 (Yamamoto Reo)		
研究協力者	藤原 彩人 (Fujiwara Ayato)		
研究協力者	富井 大裕 (Tomii Motohiro)		
研究協力者	尾関 幸 (Ozeki Miyuki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森 啓輔 (Mori Keisuke)		
研究協力者	五十嵐 直子 (Igarashi Naoko)		
研究協力者	森本 康平 (Morimoto Kohei)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関